

練馬Press

No.007

設立40周年記念号

来年は40周年!!

練馬区は戦後まもなく1947年に板橋区から分離独立して、東京23区の最も新しい街として誕生し、今年70周年になるという。それまでは板橋区の一部であった練馬村、上練馬村、中新井村、石神井村、大泉村の区域が板橋区に含まれていた。しかし、広大な板橋区の区役所までがあまりにも遠距離であり、不便だったことから、練馬区として分離独立に至ったそうである。

現在の練馬区の人口は、約74万人。これは23区のなかで世田谷区に次いでいて、練馬区より人口の多い市はわずか19市だけである。いかに巨大なエリアと人口を擁した行政区域であることがわかる。ちなみに練馬区在の早大出身者は約7000人。

第12回ニューイヤーコンサート開催! 前売り券、好評発売中!!

当会のシンボリックな催事として定着し、ワセオケファンが待ち望んでいる早稲田大学交響楽団による新春コンサート。1月20日(土)17:00～練馬文化センター大ホールにて。曾我大介指揮により、プッチーニの「トゥーランドット」、チャイコフスキーの「ロメオとジュリエット」などが華麗に演奏される。

その練馬区に校友会組織である「練馬稲門会」が設立されたのは1978年3月18日。設立総会は豊島園で開かれたが、これに至るまでには、ワセダを愛する10数名の有志による発起人会、幹事会が断続的に開かれ設立への道が創られていった。初代の会長には、設立に向けて中心的な役割をはたしてきた荻野^{まさる}優。1994年7月に逝去するまで16年にわたり会長を務めたが、名実ともに当会設立の中心であり、その発展に貢献したことは誰しもが認めるところである。そして迎える2018年は40周年の節目。全国でも有数の校友会として、会員のみなさんすべてが力を合わせ、ますます発展していくことが求められている。



初代会長 荻野 優

「新春の集い・2018」 ご家族お誘いあわせて……

昨年好評だった集いを2月24日(土)18:00から練馬駅近接のココネリホール3Fにて実施。ハープの演奏や豪華賞品が当たるクイズ大会も……。



(文：鈴木 奎三郎／写真：岡田 吉郎)

旅行部スタートの頃

手塚 康博



1990年当時は会員数は80名程度で、行事への参加者も少なかった。少しでも会員を増やそうと、塩田幹事長とともに海外旅行のツアーをいろいろと考えた。たまたま大学の商議員の田代代議員から、ハワイ旅行の提案があった。2002年2月、夫人を入れて総勢19名が現地へ出発した。

記念すべき1回目のツアーであった。ちょうど当地では、環太平洋稲門会準備総会が開かれており、これにも参加したが、当会が最大の参加者であった。総会では、立野先輩が主賓として挨拶した。たまたま立野ご夫婦の結婚50周年であったため、サンセット・クルージングの船上で地元の人と一緒に祝いをした。

2003年9月下旬には、気候、治

ゴルフこそ吾が命

中島 晴喜



いまから40年前の1978年3月、当会から設立総会開催の案内をいただき、家内、子供2人で豊島園に行つたのが契機で、以来40年にわたって人生の半分を練稲とともに過ごしてきました。また、練稲設立30周年では総会の実行委員長を



第150回記念ゴルフ大会(2014年10月17日)

務め、約150名の記念会を盛会裏に行えたことが忘れられない記憶です。

サークル活動ではおもにゴルフ部会を中心に取り組んできました。1994年の第1回コンペはわずか15名の参加者でしたが、いまでは通算23年間、175回となっております。当初は、荻野会長と塩田事務総長が発起人となり春、秋2回でしたが、現在は年8回、参加者も毎回40名を超える盛況となっております。当会の人気ナンバー1の主要なサークルとなっております。

この20年間では、ハワイなどの海外ツアー、練馬三田会との対抗戦、早大校友会ゴルフ大会2連続団体優勝など思い出は尽きません。100回記念大会を覆が関CCで、125回大会を高坂CCで、そして150回は練稲会員に加え近隣20の稲門会から数多くの参加者を得て、高坂CCにて132名の賑やかな大会となりました。これに至るまでは、会員の皆様のご協力があったからこそであり感謝の念に堪えません。練稲、そしてゴルフこそ吾が命。練稲とゴルフ部の発展を心からお祈りしています。(1958年卒)

田中君との縁、写真クラブの発足

岡田 吉郎



に元気で100まで頑張ろうか……という気になってきます。練稲に入ったのは、その田中君が道をつけてくれました。

8年前に彼から当会への入会を勧められ、入会すると同時に以前から趣味としていた「写真クラブ」を作ることになりました。現在は10名の会員ですが、少数精鋭の面々が集っています。

早いもので当会に入ってもう8年になります。入会のキッカケを作ってくれたのは、大学で同期・同学科の田中秀憲君です。彼とは同じクラスでしたが、グループが違っていたため初めは接点がありませんでした。たまたま彼の妹さんが多くの仲間のH君とお付き合いがあり、その縁で田中君と親しくなつたわけです。

お互いにジャズが好きであることが分かり、若いころは当時、高円寺にあったジャズ喫茶「(確か)SWING」に出かけたものです。考えてみたら彼とはそれ以来の無二の友人であります。

半世紀を超える友人の関係は、そうあるものではありません。周りの人からはよく、腐れ縁ですね……などとかかわれますが、ここまで来たらお互い

月例会でお互いの作品を持ち寄り、切磋琢磨しながらより良い作品作りに励んでいます。作品は当初は、総会時に会場の一角で展示したりしていましたが、2015年からは練馬文化センターの展示場を会場にして、100〜150名を超えるみなさんにおいて頂くようになってきました。

これに應えるべく、メンバーの実力も年々上がっているようで、これから先が本当に楽しみななっています。たかが写真、されど写真……当会を通して一枚の写真が結ぶ縁を大切にこれからも励んでいきたいと思えます。

もちろん技量の良し悪しは不問です。みなさんのご入会を心からお待ちしています。(1960年卒)

早稲田三代目

田中 秀憲



田中家は3代続きのワセダニアンである。祖父は大隈侯の門下生、父は理工学部電気工学、私は同じく電気通信と3代続いてきたが、息子は英語嫌い(海外生活のトラウマ)で早稲田は無理。農工大に入った。おおらかでアバウトな性格は父親譲りであるようだ。

しかし私の姉が同級生と結婚し、その息子が早稲田実業から早大ラグビー部に入り、昭和63年決勝で清宮らと一緒に戦い、明治と東芝を制し学生優勝を成し遂げた。息子ができなかった早稲田4代目は辛くも甥っ子が築き上げた。

練馬に住むようになったのは、昭和33年、父が会社の上司から押し付けられた建売住宅が始まりである。

ぼくは大学2年生。周りはあたり一面

草ぼうぼうであった。もちろん環状7号線もなかった。

当会との縁結びは、当時事務局長をしていた塩田典夫さんである。平成10年ごろだと記憶しているが、ある日、わが家に塩田さんがやってきて入会を勧められたのがキッカケである。

入会して一番有り難かったのは、現役の頃は300回も海外出張をしていたのに行けなかった台湾、サイパン、グアム、ハワイ、ベトナム、海南島などで家内と子ども楽しむことができたことだ。当時の旅行部長は手塚康博さんが頑張っていた。

また、大学同期で長年の親友である岡田吉郎君を当会に誘って、写真クラブの立ち上げを手伝ったり、引退後の楽しさを満喫している。

これもひとえに早稲田伝統の「和の心」「利他の心」を守るみなさんのおかげである。(1960年卒)



人生の追憶——囲碁と帰らざる河

柳 次郎



囲碁同好会は発足して17年になる。当初は対局会場も定まらず、淵上氏や富岡氏と共に苦勞したが、今では練馬駅近くに落ち着いている。囲碁部会が何より特筆すべきことは、関東地区稲門会の囲碁大会（通称オール早稲田囲碁祭り）無差別級の団体戦で見事に優勝したことである（平成16年6月）。40チーム、約200人の参加だったが、無差別級は名実ともにNo.1である。棋士は、武田八段、佐川八段、井口七段、松村七段、安芸六段の皆さんであった。

●青春時代——映画の感激

傘寿を機会に断捨離を始めたら、半世紀前に執筆した同窓会会報誌が出てきた。当時の若い感性を思い出しながら同時に傘寿では書けない寂しさも覚える。それ

は映画「帰らざる河」である。

博多中洲の日活ホテルで初めてマリリン・モンローを偶然見かけた！新婚旅行中だったらしい。高校3年生当時に彼女が世界的な女優であることはまだ知らなかった。

3年後（早稲田の学生）、東京で再会。彼女は劇場のスクリーンのなか、「帰らざる河」。主題歌も大ヒットしたが、「ゴールドラッシュ、カナディアンロッキーズを舞台に筏で激流下りの迫力、インディアン襲撃、悪漢との対決など西部劇の魅力満載。モンローの唯一の西部劇でもあった。がしかし、赤いドレス姿のモンローはテント小屋の酒場で、酔っ払い相手にギターを弾きながら甘くかつたるい声で、「ワン・シルバー・ダラー」を歌う。それも太腿をあらわに。これがあの時のモンローか!?

そうこの日、「No-Return! No-Return!」と口ずさみながら、学生寮（東伏見）に帰る気になれず、仲間と居酒屋でモンローを語り飲み明かした。それから「帰らざるモンロー」の大ファンとして、今日に至る。（1960年卒）

スポーツ観戦の醍醐味

富塚 辰雄



私が総会に参加したのは第5回、

1982年5月に豊島園で開かれ、ご家族含めて100名余の参加であったと記憶しています。ぼくが42才の時でした。初代会長は荻野優さん、常任幹事は村上健さんで、おふたりにはお世話になりました。

設立後、総会は以後年1回、春か夏に会場を変えながら開かれてきましたが、これが唯一で、現在のようにサークル活動もありませんでした。設立20周年大会は、1998年6月に池袋のサンシャインプリンスホテル・天覧の間で開かれるなど、新しい試みにより300名余の参加者がありました。

4代目の幹事長となった塩田典夫さん（1996年から事務総長）は、会員拡

大のために、いくつかの方法を考えました。

ひとつは、会員相互の親睦と連帯を図るため、趣味やスポーツのサークルを立ち上げることでした。そのひとつが「スポーツ観戦部会」、いまの「早稲田スポーツを楽しむ会」の始まりです。初代会長は私が務め、いまは小島忠夫幹事が熱心に取り組んでいます。

野球、ラグビー、箱根駅伝などを観戦しながら応援するもので、野球の早慶戦には、春夏それぞれ40〜50名が参集します。ネット裏の特別内野席での応援は、学生時代に戻ったかのような感動と興奮を覚え、全員で盛り上がります。

ラグビーは伝統の早明戦を主に、国立競技場での観戦、現在は秩父宮競技場での応援が続いています。観戦後は場所を居酒屋に移して、勝っても負けてもおおいに盛り上がる日々を仲良く楽しんでいきます。それも、良き仲間、良き友がいればこそです。

これからも、大いに練稲ライフを楽しんでいきたいと思えます。

（1963年卒）

過去、現在、そして明日へ

荻野 隆義



ることにした。この効果もあり、今日では東京23区稲門会のトップクラスの規模を実現することとなった。

さらに会のシンボリックな催事として2007年、早稲田大学交響楽団の新春コンサートを練馬文化センターで開催した。チケット販売や諸準備に関係者一同苦労を重ねたが、これは成功裏に終わる来年は12回目を迎える。練馬区にも「練馬区みどりの葉っぱ基金」に寄付を続けるなど、地域社会に貢献するという目的も果たしている。また、サークル活動も年々盛んとなっていて、現在では20サークルを数える。この充実度は他の稲門会のなかでも群を抜いているのではないかと思う。

歳月の流れはいかにも早く、当会は来年設立40周年を迎える。設立の頃を知る諸先輩は鬼籍に入った方も多く、設立発起人のひとりであり初代会長を16年務めた父・優も亡くなって四半世紀が経つ。1978年3月、豊島園の「それいゆ」で開かれた設立総会には約200名が参加、大学から村井資長総長、練馬区の田畑健介区長らが出席、規約の審議、役員を選出などが行われて輝かしい船出であった。私はその頃35才の若造だった。が、いまだにこの総会のことには父の記憶とともに脳裏によみがえる。

1994年、父の後を受けて2代会長に推挙された。そこで考えたことは、会の更なる発展のためにいくつかのサークルを作り、会員相互の親睦と連帯感を図ることにした。この効果もあり、今日では東京23区稲門会のトップクラスの規模を実現することとなった。

西北の風

鈴木 奎三郎



その幹事を任命され年に2回程度の懇親会などをやっていたが、会社組織に学問的な組織はなじまないし、いいことはない……と思いつつ、三田会ともども解散した。会社に入ってまでワセダでもないだろう……と考えたからだ。

早稲田に進んだのは、ある意味では必然であったかもしれない。早世した父の母親は、4代目総長田中穂積さんの妹君である。従って田中総長は父の叔父、ぼくにとっては大叔父に当たる。出身は長野市の郊外である。そんなことを小さいころから聞いていた。いまでも大隈庭園に行くとき必ず銅像にご挨拶する。

44才で病没した父の唯一の形見は、早大馬術部の馬蹄形のカフスポタンである。長兄は長野稲門会の会長を3期6年で辞めた。こういう役職は一人が長くやるものじゃないよ……と言っていた。

ぼくが当会に入ったのは2000年ごろであろうか。ある日曜日の昼下がりが、わが家に塩田典夫さんがやってきて入会を勧められたのがキッカである。ちょうどこの頃は会社の仕事が多忙を極め、当分参加はできませんが……ということに入会させていただいた。

ちょうど同じ頃、大学から指名されて、校友会の幹事と「早稲田学報」の編集委員を委嘱された。これはなんとか月に1回の編集会議には出かけるようにした。当時の編集長・大島慎子さんと「学報」のリニューアル、A4版・カラーの隔月間化に取り組んだ。これが今のスタイルに繋がっている。

ぼくの勤めていた会社には数十人の「資生堂早稲田会」というのがあって、

サークル活動でより楽しい練稲ライフを!!

2017年12月現在、20のサークルがそれぞれ活発な活動を行っています。お好きなサークルを探して、交友の輪をさらに広げてください。

●各サークル連絡表

2017年12月1日現在 (事務局：作成)

	サークル	部長	卒年	連絡先(Tel)	開催予定日
1	ゴルフ部会	栗原 英明	S40	3924-1119	毎月(日は未定、7、8、12、1、2月休会)、早慶戦(年1回)5月
2	歴史ウォーキング部会	八巻 孝夫	S45	3997-5703	七福神巡り他、年6回程度(3月～5月、9月～11月)、夏冬休み
3	旅行部会	藤沢 礎	S49	3867-2210	年間3回程度
4	マージャン部会	喜々津和夫	S43	3991-7085	奇数月の最終土曜日、年2回早慶戦、年2回近隣会、年1回熱海泊
5	囲碁部会	築山 哲	S41	6760-9579	毎月第3土曜日、年1回湯ヶ原泊、春・秋豊島対抗戦
6	グルメ会	持ち回り		事務局 3994-8212	年2回程度
7	テニス部会(硬式)	菊田 勉	S44	3310-3900	毎月1回(日は未定)、夏合宿(軽井沢泊)
8	エッセイ同好会	照山 忠利	S45	5387-5176	偶数月(第3土曜日)
9	ワセダスポーツを楽しむ会	小島 忠夫	S41	3929-9383	箱根駅伝、野球早慶戦、早明ラグビー、早慶レガッタ
10	カラオケ部会	土屋 正孝	S45	3929-9227	毎月(第3月曜日)PM4:00～7:00
11	山歩き会	石村 毅	S43	5241-1866	毎月1回・第1木曜日定例会
12	写真クラブ	岡田 吉郎	S35	0424-52-9381	毎月第3水曜日
13	パソコン教室	築山 哲	S41	6760-9579	毎週木曜日(PM1:00～3:00)
14	ティータイムコンサート	土田 寿久	S42	3995-1227	3ヵ月に1回程度(歌・落語・等)
15	酒楽会	森 正治	S46	090-4361-6656	月末の最後の木曜日(年5回)PM5:00～7:00
16	釣り愛好会	松浦 康夫	S48	3904-2455	年4回
17	青年部会	小野 惣一	S60	6914-7681	年3～4回開催予定
18	料理を楽しむ会	仲山 典美	S40	3994-8665	2ヵ月に1回
19	陶芸を楽しむ会	田原 亜彦	S38	3929-7063	毎月第1月曜日
20	フォークソング愛好会	河野 省三	S41	6914-5016	月1回(2時間程度)

お悔やみ申し上げます 唐沢 憲正さん 1960年政経卒 2017. 8. 3ご逝去

ぜひご覧ください!! ホームページ

開設13年になるHP。ここには当会の最新の活動がすべて集約されています。

「練稲 PRESS」と併せてご覧ください。

<http://nerima.waseda-info.com/>

編集・発行: 広報・ICTチーム

鈴木奎三郎 山田興太郎 照山忠利 岡田吉郎 平田慎一郎 築山 哲 小澤由喜雄 広瀬茂雄

発行所: 〒176-0014 練馬区豊玉南3-6-2 第2春日ビル2F 練馬稲門会事務局 TEL.03(3994)8212 FAX.03(3994)8219